

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	5年	内容項目	4－(7)
主題名	郷土や国を愛する心				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・古きよき伝統 これまでも、これからも 松尾芭蕉 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会) ・俳句・短歌・百人一首 「国語おもしろ発見クラブ」 著者 山口理 (偕成社) 				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の俳句の優れた表現に目を向け、俳句の形式や表現の仕方を良く理解し、読み取った内容を想像豊かに読み味わうことができる。 ・自然や身の回りの出来事を題材に自分たちで俳句を作り、表現の効果について工夫したり、確かめたりすることができる。 ・俳句は、世界に類を見ない我が国独自の短詩形文学であり、日本人の感性によって育まれたものであることを理解するとともに、芭蕉の生き方を通して、郷土や国を愛する心を育てる。 				
展開	学習活動と主な発問		指導上の要点		
	<p>1 芭蕉の生涯や俳句を読み合いながら、その生き方や俳句のより良い表現に気づく。 (発問) 「芭蕉はたくさんの句を残しています。それらの中から自分が気に入った句を選び、その句の意味や選んだ理由などについて発表しましょう。」</p> <p>2 秋の言葉を季語として、感じたことや思いが伝わるように表現を工夫して、自分なりの俳句を作る。 (発問) 「自分だけが感じたことや思ったことを俳句で表してみよう。」</p> <p>3 自分の俳句を発表する。</p> <p>4 友だちが作った俳句のいいところを見つける。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「三重県 心のノート」を読み、芭蕉の人生について考えさせる。 ・図書室の資料やインターネットなどを使い、芭蕉の俳句を探させる。 ・俳句を作るときの工夫について理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①五七五の十七音で作る。 ②季語を盛りこむ。 ③マルで終わる一行文にしない。 ④直接的に感情を表現するような言葉を使わない。 ⑤季語を重ねない。 ⑥意外性のあるものを取り合わせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった俳句の中から一つを選び短冊に書いて黒板にはらせる。 ・友だちが作った俳句のいいところや工夫しているところを見つけさせ、なぜいいと思ったか理 		

	<p>5 自分の俳句について、もう一度考え、友だちが発表した俳句を参考にしながら、推敲したり、見直したりして、俳句を完成させる。</p> <p>6 たくさんの俳句を詠んだ芭蕉についての感想を書く。 (発問) 「ひとつの俳句を作るのにも大変だったみなさんですが、生涯にわたり俳句を作り続けた芭蕉についてどう思いますか。」</p>	<p>由も一緒に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくできなかった俳句については、どう工夫すればよいかを友だちが発表した俳句を参考にしながら、もう一度考えさせる。 ・数多くの俳句を完成させ、俳句を芸術として高めた芭蕉について、もう一度考えさせる。
他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「俳句をつくろう」の単元では、俳句を作るだけの学習ではなく、三重県出身の芭蕉の生き方にも触れることで、いっそう俳句好きな児童が増えることを願っている。 ・俳句を学習することで、言葉の持つ響きやリズム、語感を養い、言葉の使い方に関心を向けることができる。さらに、豊かな言語生活を通して、物の本当の美しさを感じ取らせ、物事に対して素直に感動することができる心情を育てたい。 ・俳句作りを通して自分の考えや思いを少しでも伝えることが出来れば、何らかの自信につながると考える。 ・情報教育活動との関連（インターネットで芭蕉の俳句を調べる）。 ・図書館教育との関連（図書館で俳句について書いてある本を調べる）。 ・図画工作との関連（色紙に枯葉を描き、俳句をそえる）。 	
成果と課題	<p>1 芭蕉の俳句を調べ、それらの中から自分が気に入った俳句を選ぶ。（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかあかと 日はつれなくも 秋の風 (秋になっても暑いとわたしも思ったから) ・十六夜は わずかに闇の 初め哉 (理科で太陽と月の学習をしたので興味があったから) ・古池や 蛙飛びこむ 水の音 (カエルがでてくるのがおもしろかったから) ・夏近し その口たばへ 花の風 (私も夏が来るのを楽しみにしていたときがあったから) ・閑さや 岩にしみ入る 蟬の声 (蟬が鳴くのを音としているところがいいから) ・雨の日や 世間の秋を 堺町 (季節の中では秋が好きだから) ・菊の香や 奈良には 古き仏たち (菊は秋で、今は秋だからこれがいいと思ったから) <p>2 自分の俳句を発表する。（季語 秋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒くなり 6年生も ころもがえ ・昨秋に 買った自転車 一年目 ・運動会 微妙なポーズ 自分だけ ・秋になり 半そでしまって 長そでだ ・がんばった 今年最後の 運動会 	

- ・秋来ても 台風どンドン やってくる
- ・木の枯葉 風がふいたら 踊りだす
- ・さつまいも 黄色くなって あまくなる
- ・スズムシが 演奏をして 楽しそう

3 図画工作との関連（色紙に枯葉を描き、俳句をそえる。）



秋になり 月がきれいな
夜空だね



葉がかけた 虫もいっぱい
秋食べる



どんぐりが くるくるまわって
こままわし



山のほう 紅葉になり
もようがえ



落ちてゆく 木の葉がかれて
秋が行く



秋だけだ 葉っぱが赤に
変わるのほ

4 芭蕉についての感想

- ・芭蕉は、俳句を何百何千と考えているけど、どうしたらあんな俳句ができるかわかりません。わたしもあんな考え方ができるといいな。
- ・松尾芭蕉は、いろいろな俳句をいっぱい作り、その中には、おもしろい俳句もいっぱいあって「気に入った俳句を一つ選びなさい。」と先生に言われたときは、ちょっと迷いました。
- ・300年も前から歴史に残っているということは、本当に有名なんだなあと思った。
- ・三重県にそんなに有名な俳諧師がいたとは、知らなかった。俳句の中には、夏のことだけでもいっぱいあったから、さすが有名な人だと思った。
- ・芭蕉は300年以上も前から、俳句をいっぱい作っていたのなら、ほとんど毎日休まずに俳句作りを続けたんだなあと思った。
- ・芭蕉は、俳句で300年以上も知られていて、だれもが知っている有名な俳句を次々と出したので、どうしたらそこまで登りつめることができたのだろうと思った。
- ・自分ならあんなにポンポンと俳句が出てこないと思った。松尾芭蕉の俳句は、心に残る俳句だと思った。
- ・日常に使う言葉を使って俳句を作ったことで、ぼくたちも日常で使う言葉で俳句を作っているが、これも松尾芭蕉のおかげだと思います。
- ・松尾芭蕉は、とても俳句が好きなんだなあと思った。
- ・松尾芭蕉は300年以上も前に三重県で生まれて、今日まで歴史に名前が残っている

るので、ぼくはこんな人が三重で生まれていたことにびっくりしました。

- 芭蕉は、三重県を代表する人なので、三重の誇りです。もし、芭蕉がもっと生きていたら日本中が俳句で盛り上がっていたと思います。
- パソコンで「有名な俳句」と打ったら、松尾芭蕉の俳句が出てきたから、とても有名な人とわかった。
- 松尾芭蕉は生涯1000句以上俳句を作り続けて、ぼくがその中でおもしろいと思ったのは、「松島や ああ松島や 松島や」です。芭蕉は松島が好きなんだなあと思いました。
- 松尾芭蕉が詠んだ俳句は、おもしろおかしい作品が多くて、もっと本などで読んでみたいと思いました。
- こんな古い時代にりっぱな俳句を作り、日本中の注目を集めた芭蕉は、たいしたものだと思います。